

## 大野市小中学校再編計画（案）説明会開催結果概要

日 時 令和3年6月26日（土）午後7時00分～8時30分  
場 所 富田小学校 体育館  
出席者 富田小学校区住民 6名  
教育長、教育委員会事務局長、教育総務課長、学校教育審議監  
教育総務課職員3名

顛 末

①教育長あいさつ

②大野市小中学校再編計画（案）の説明（資料に基づき説明）

③質疑応答

参加者 資料8ページの「登下校の負担軽減」に、「通学距離が概ね片道4km（中学校は6km）以上の区にスクールバスを運行」することが書いてあるが、小学校1年の子が片道4km歩くことや、中学生が自転車通学するにしても結構時間がかかると思う。ましてや冬になると雪が降って自転車では行けない。そのような場合もあるため、この基準をもう少し短くできないかと思うがどうか。

市教委 小学校は片道4km、中学校は片道6kmと書いてあるのは、あくまで文部科学省が示している目安である。この4km、6kmで線を引くということではない。現在のスクールバスの運行は、例えば富田小学校に通っている児童では、森目方面から来るスクールバスや蕨生方面から来るスクールバスに4km未満でも乗っている児童が多数いる。スクールバスの運行に関しては、準備委員会の中で、保護者などの意見を十分にお聞きして、運行経路やどういう児童生徒がスクールバスに乗るかということ十分に協議したいと思っている。

参加者 保護者や生徒にすれば、通学が負担になるのは駄目だが、スクールバスで全て対応するとなると、足が弱くなるなどの面もあると思う。今後とも協議して、保護者や生徒にとって良くなるよう検討してほしいと思う。

参加者 2ページの「子どもの成長過程を踏まえる」で、「中学校期は」の最後に、「生きる力と社会性を育て」とあるが、この再編が終わった後の学校の形で、中学生たちのこの部分を具体的にどういう教育をすることで育てるのか、後学のために教えてほしい。

市教委 特に中学校の場合には、小学校6年生くらいから始まる第2次性徴や思春期という一度小学校の教育や成長をリセットする時期であり、なるべく多くの同級生や異学年の友達、さまざまな教員や大人と接することによって、心の成長や精神的な成長をサポートしたい。

参加者 今の説明では、大規模校で人数が多くなれば、自然と育まれるということかと思う。具体的にはどうか。

市教委 新生陽明中学校の環境と、今の尚徳中学校の環境をイメージしてみたい。もちろん、尚徳中学校は尚徳中学校で、最大限その特徴を生かして教育がなされていると思う。尚徳中学校では、これまでは2～3クラスの複数学級となる人数でクラス替えが出来ていたが、最近は1クラスに固定化する現象が見られる。将来的にもそのような予想が立つ。そういう面でも新生陽明中学校の方で、4～5クラスという広い世界をぜひ経験させたいと思う。

参加者 2ページの三つ目の丸「地域性を生かす」の横軸のところで、「学校間（小学校同士、中学校同士）の連携を進め」とあるが、こういう書き方をしているというのは、今はあまり出来てなく、今度再編することで、より出来るということかと捉えられる。今の計画案では、実際にどういう形で連携をとっていくのか。

市教委 2ページは、まず、大野市の目指す学校教育を表現している。これは、再編をするしないにかかわらず、大野市は何を目指すのかということである。大野市は、福井市にはない非常にコンパクトで機動力があるという地域性を持っているので、そこをしっかりとプラスの面として生かしていきたい。横軸については、今も、連合音楽会や連体を通して、横の連携をしている。また、GIGAスクールはかなり大きい改革であって、学校に居ながらさまざまな授業での交歓や生徒会活動、児童会活動などもできる可能性がある。実際、報道もされたように阪谷小学校と小山小学校がテレビ会議で授業を行っており、今後も促進できるのではないかと。そのため、横の連携はさらに進めることができると思っている。

参加者 今の回答を聞いて、これから考えて行くところなのだろうと思った。今後の動きを注視したい。

市教委 頑張るって進める。

参加者 8ページの「登下校の負担軽減」で、「保護者と学校が協議して」とあるが、保護者としては、スクールバスの運用は今後ずっと無償を希望すると思う。その予算面での対応はどうか。ここの文章だけでは、保護者と学校が、こういった形で運用しようと決めたら、市や教育委員会としてはその形で運用すればいいとなる、という捉え方ができると思うが、予算は無限ではないと思うので、やはり折衝が行われると思う。ただこの文章だけ見ると、地域の方の要望にはとにかく応えたいと見える。今でも数千万の金額が掛かっている中で、広大な範囲になれば、例えば、地域で定年したばかりの方々を何人か集めて、ドライバーに穴があいてもすぐフォローできるような体制を考え、予算を抑える計画をしているというような、何とか節約してでもとことん要望に応えたいという思いなのか、無尽蔵に予算があるのか、具体的に教えてもらいたい。

市教委 スクールバスの件はどこの地区に行っても心配事で、さまざまに質問をされ

る。明確に言えることは、遠い将来の20年後30年後は分からないが、今の段階で、スクールバスの運行でお金をいただくことは全く考えていない。8ページに書かれている、「保護者と学校が協議して」というのは、最初の大枠は皆さんでさまざまなことを決めていきたいと思うが、またその次の年、その次の年と、今年はこの地区に子どもがいないとか、新しく通う子どもが出てきたりするとルートが変わる。時間や運行ルートの決定、時間を少し早くして欲しいとか、部活が最近遅いから少し遅くしたいということ、毎年見直していくという意味である。今言われたように、無尽蔵にお金があるわけではないが、地元の要望には精一杯お応えしたいと思っている。

参加者 各集落で、意見をまとめてこれで行こうと決めなければいけなくなると思う。結局、声の大きい人が勝ち、不利益を被る人も出てくるかと思う。しっかり、皆が納得する形で、スクールバスの運行を決める委員会を各地区で決めて、誰かがリードしないと、いざこざになると思うので、しばらくは無料ということもありがたいと思う。できれば、15年、20年経っても、やっぱり大野の教育環境はいいと言われるような、スクールバスの運営をお願いしたいと思う。

市教委 スクールバスのことであるが、もちろん教育委員会もそこに関係していく。1ルートにするのか2ルートにするのか3ルートにするのかということも当然、出てくる。一番地区の事をご存知なのは皆さんだ。しかし、我々もしっかりその地区の様子を実感したいと思っている。例えば、この富田小学校のスクールバスは2路線ある。私は土布子のふれあい会館の前から出発し、新河原に入る便にも乗り、下唯野の広場から出発する便にも乗せてもらった。また、他の学校のスクールバスにも同乗したり、後から自動車で付いたり、教育委員会でもしっかり体感しており、この体験も踏まえて協議に関わらせていただきたいと思う。

旧乾側小学校の児童も、全員スクールバスで下庄に通っているが、1カ月に1回は教育委員会の誰かが、乾側のスクールバスに乗ることにしている。4月1日から統合になったから、それで終わりではなく、しっかりその後もサポートする。今、旧乾側小学校の児童が下庄小学校でどう過ごしているかも含めて、サポートもしっかりやっていきたいと思う。貴重な意見ありがたい。しっかり頑張っていく。

参加者 今までの説明会の中で一番多かった質問の内容と、それに対する回答を聞きたい。新しく学校を作るとインターネット環境を強化すると思うが、今、コロナ禍で流行っているテレワークのような、インターネット越しでの授業は、回線が強くないと配信ができないと思う。今後の展望で、配信環境が強化出来るなら嬉しい。配信環境が整うならば、例えば、学校裏にネットワーク越しで監視できるカメラを設置して、サーバーにデータを蓄積して声ログや映像ログを

残すという、いじめ対策ができるとうい。揚げ足を取るわけではないが、計画案にある「生きる力」で、今SNSの使い方が分かっていないからバイトテロなどが発生するのだと思う。親が教えろという話かも知れないが、「こういうことをしては駄目だよ」とか「危ないよ」というのが分かるのであれば、高校に上がる前の中学校3年生を対象に、何か気を使ってくれたらいいと思う。インターネットに関して、何か強化の案があるのかお聞きしたい。

市教委 多かった質問についてお答えする。先ほども申し上げたが、スクールバスでの通学についてどうするのか、あるいは十分やってくれるのかという質問が最も多かった。先ほどいただいた質問と同じで、4km、6kmにするのかということ言われたこともあった。私どもの回答としては、これはあくまで文部科学省の基準を記載しているだけなので、十分、柔軟に対応させていただくということ、教育委員会から提案するのではなく、十分、地元の方や保護者と話し合っ決めてさせていただくとお答えした。

二つ目のICT教育について全部ひっくるめてお答えする。今年度からGIGAスクール構想ということで、小中学生に1人1台のタブレットが配備された。今、学校では、そのタブレットを使っいろいろな授業に挑戦している。学校を回っ、その活用状況を見ているが、一番は、まず教員が、どう使うと効果的かということ学ばなければいけないと思っている。見ていると、子どもたちの方が早く操作を覚え、タッチやドロップアウト、ドロップインしながら、授業に取っ組んでいる。やはり今の子どもたちだと思っている。また、リモートでの授業もできる。大人の社会で言うテレワークのようなものだ。そういうことも設備としては可能である。

先ほどSNSでのいじめの問題について、これからはそういう問題が増えることも考えられる。だが、私は逆だと思っ。1人1台タブレットが整備された中で、小学校1年生からインターネット上のルール、使う時のルールをしっかりと学ぶことで、してはいけないことを学んでくれることに大いに期待したいと思っている。ICTやタブレットだけの活用だけではなく、こういう1対1で皆さんと対面しながら話をするとっ、昔ながらのフェイスツーフェイスが、今後も絶対に教育では大切な部分であるため、ICTのデジタルの部分と、アナログの部分を上手く融合しながら、学校教育をしっかりとやっていきたい。これは統合になっても同じ、再編になっても同じだと思っ。

これからはさらに、そういうことがICT教育の新たな時代に求められるようになると思っている。

参加者 学校内での、自分の名前の登録はいいが、例えば、SNSでの実名登録はどう思われるか。

市教委 SNSのフェイスブックやツイッターなどで、いわゆる別な名前で登録した

り、あるいは成りすましをしたりすることについての質問かと思う。現状では SNS の実名や本人であることの証明というのは求められてないのではないか。

参加者 実名に対して正解はない。私の世代では、実名は絶対にインターネットに載せないというのが基本のルールだった。だが、今の SNS の基本ルールは、多分、実名登録だ。昔流行ったフェイスブックは、絶対、実名でしか登録できなかった。今流行って広がってきているのは、ツイッターとかの実名を使わないものが流行ってきてる。要するに、どちら方面で教えていくか。自分のことが分かっていないといけないのだが、実名を使った時の危険性と使わなかった時の危険性をちゃんと分かって教えていただくことが、一番危険を知る上では強いと思う。黒い部分にいかにつれていくか、私も自分の子どもには SNS は危ないということを言っている。周りの子にもそのことを知ってもらいたい。教える教員が、もっとインターネットに詳しい人ならば、危なくないかと思う。今の時代、インターネットのことが気にかかるので、聞かせていただいた。

市教委 学校の校長会や教頭会、インターネットの関係者の研究会で、まずは、その使い方や要綱の中身の話まで、しっかり合意文書を作って進めている。ただ、これからいろいろな問題が出てくる可能性もある。そのため、このようなことについても、インターネットや ICT に詳しい教員もいるので、しっかり対応したいと思う。また、心配であれば、学校の方にいろいろアドバイスいただけるとありがたい。家に帰って自分で端末機を持った時には、しっかり判断してほしいと思う。

GIGA スクール構想で環境が大きく変わった。今までも、SNS での危険性については、NTT やドコモの専門家に来てもらい学校でも指導していたが、学校では機器を使っていなかったのだから、家に帰って使う時にはという条件付きだった。でも今度は手元に一つずつある。そして、セキュリティのことや規制を掛けるということについても、全部ガチガチというやり方もあるが、やっぱり自分で判断して、ここはやめておこうとか、これは駄目だとか、そういう直接指導ができるので、かなりその辺は変わってくると思う。

参加者 今の話を横で聞いていても、受け答えがちょっとかみ合っていないと感じた。先ほど質問した方は、自分の子どもに対してソーシャルネットワークの教育をしているが、保護者の中には、先生方がどのような教育をしているのかを知りたい保護者もいるであろうが、実際に全くやってない保護者が大多数かと思っている。若い学校の先生方が、子どもたちにインターネットに関してこういう教育をしているというのを、今の若い世代の親の方にオープンにすれば良いと思う。そういう機会を作ると、逆に、保護者からも、ここはどうなのかという声が出てくると思う。今、ここだけで話す内容ではなく、帰って、若い先生方が、どういった形でしているのかを確認して、各世代の保護者の方に説明する

必要があるのではないか。

市教委　そういう意味で、一つ一つ進めていく。今の話も、当然学校の教育も必要であり、やはり子どもについていけない部分はあるが、大人自身、勉強することが必要だと思う。こういう社会であるから、しっかり対応し、しっかり進めていく。

参加者　12ページを見ると、令和3年の状況で、富田小学校の教員が11人、阪谷小学校が7人いる。令和8年に統合された場合は、1学年1クラスになり6学級になり担任の先生は1人ずつしかつかないと思う。そうすると、今までは阪谷小学校の担任の先生3人～4人と富田小学校の担任6人の、計10人で学年の指導をしていたのが、統合すると6人になる。阪谷小学校の先生を優遇するというわけではないが、十分に指導すると言っても子どもたちにはそれだけで良いのかと思う。統合された時に、1学年3人のクラスが20数人になる学年もあり、1人が20数人になる学年もある。そうなった時に、阪谷小学校に通っていた子どもたちは、1人の先生で対応できるのか、1人の先生でいいのかとの疑問がある。

市教委　今の質問は、阪谷小学校と富田小学校でそれぞれ教えていた教員が、統合によって、実際に数が減った場合に、それに対応が大丈夫かということによいか。

参加者　富田小学校の子どもたちは1クラス10～20数人いて、3人増えることに対応できるかも知れないが、阪谷小学校の子どもたちは、急に3人が20数人に増えると教育環境はどうなるのか、私は心配である。

市教委　富田小学校や富田地区の皆さんとして、阪谷小学校の子どもたちを心配されることに対して、まずお礼を申し上げる。本当にありがたい。今、阪谷地区の方がライブを見ているとすると、本当に喜んでいると思う。ぜひ、そういう温かい気持ちで受け入れてあげていただきたいと思う。質問の答えの結論からいうと、それで十分かということそうではないが、阪谷小学校の子たちにも富田小学校の子たちにも、新しい世界をプラスとして捉えてもらいたいと思う。統合後の教員の数は、富田小学校と阪谷小学校の教員の人数を足した合計にはならず、減る。今まで2～3人のクラスが、20人になったとしたら、子どもたちは、そこで成長すると思う。今まで1対1に近い関係で教育を受けてきたのを、今度は、自分でしっかり聞いてしっかり自分で動くということがより必要になってくる。そういうところは、心配はしなければいけないけれども、あまり心配し過ぎないで、彼らの力、能力、成長の種を信じて、背中を押してやりたいと思う。

参加者　児童の人数が少し増えても、1学年1人の先生ということか。

市教委　基本的にはそうだ。ただ、統合になった1年目は、県が教員を1人プラスして配置してくれるので、そういう措置はしっかり確保していきたいと思う。頑

張ってやる。

参加者 ちょっとの外れかも分からないが、小学校も中学校も環境変化の対応で、新しい学校に馴染みやすくするという事は、表現上は凄く良いが、村部の学校と市街地の学校が統合をした時に、社会で言うところの派閥的な考え方でのいじめが出る要素は多分あると思う。その点については、今の資料には一切表現されていないが、どういう対応をしていく方針なのか。

私の時代でも富田地区と阪谷地区の生徒が尚徳中学校で一緒になると、派閥のようなものがあり、トラブルが結構あった。私はもう一線から外れているから実態とかみ合わないかも知れないが、仕事している時に聞いたうわさでは、ある学校では、結構やんちゃな子がいるという話も聞く。また、あの先生はどうなのかということも耳にすることもある。小学校についてはめったなことはない、よほどのことがない限り、出てこないと思うが、思春期に入る中学生くらいになると、そういうところが芽を出していく要因があらうかと思う。そのため、教職員の方が本当に、その辺について目を光らせてくれているのか、またそれがカバーできるような状況をつくれるかどうか、今のうちから、どういうふうな考え方か、参考程度に、お聞かせいただきたい。

市教委 やはり、小さい所から大きい所というといじめがあるのでは、差別されるのでは、肩身が狭い思いをするのではと、保護者さんは一様にご心配されると思う。1点目について、私は、陽明中学校と開成中学校に勤めていたが、大きい学校は包容力がある。いろいろな子どもたちがいるので、例えば、どこかから1~2人転校して来たとしても、その子たちをスムーズに受け入れるという土壌がある。私は、50年前に小山中学校2年生の時に開成中学校が出来て、開成中学校に中学校3年生の時にいった。その時の開成中学校の3年生は9クラス、我々小山中学校は20人で行った。その時、彼らはとても温かかった。本当に温かく受け入れてくれたという感覚がある。そのため、今度、尚徳中学校の方が陽明中学校へ行っても、そういう土壌は必ずあると思う。

2点目は、これは教員が目を光らせる、大人が目を光らせて、そのような差別を防止できるかということ、そういうこともしなければならぬが、基本的にそこに頼ることは非常に危ないと思う。ただ、大野市は、結の故郷教育支援員という、市で雇用した方々にたくさん学校へ入ってもらっている。教員の免許は有ったり無かったりするが、そういう人たちがしっかりとサポートをしている。教員も当然、そういうつもりでやっている。具体的な例を申し上げますと、陽明中学校に先日、教育委員会の学校訪問で行き、3年生の授業を見た。そこで英語の教員が、「Here you are. (どうぞ)」と言ってプリントを渡す。一番前の子は、「Thank you. (ありがとうございます)」と言って受け取る。そして、その子が次の子に、また「Here you are. (どうぞ)」と言って渡すと、次の

子も、「Thank you.」と受け取る。そしてまた次の子も。全員がずっと最後までそういう会話をして、プリントを渡している。その学級は本当に生徒同士の心が繋がり、ちゃんとした絆ができていると思った。そういうつもりで、陽明中学校の教員も頑張っているし、大野市内の教員も頑張っている。

3日ほど前にも、機会があったのでまた陽明中学校へ行くと、また3年生の英語の授業だった。何か1人ずつアイデアを出すという授業で、今、地球の動物を守るために、人間はどんなことをしなければいけないかという授業だった。生徒みんなが立ってアイデアを出す、出せない子もいる。英語で言える子は、言って座る。そして、しばらくすると半分位残る。すると、日本語で答えてもいいということになって、日本語での答えもちゃんと受け入れられる。そして、一生懸命考えても出てこない子もいたが、言ってみたら前の子が言ったことだった。しかし、前の子が言ったことでもいい、君がそう思ったのならいいと先生は受け入れ、35人全員が発表出来て座った。これは、子どもたちは嬉しいだろうと思った。

一人一人が認められて、授業が進んでいく。そういうふうな学級、そういうふうな学校を作ろうというのは、大野市の教員全員が頑張っているところだ。保護者の皆さんが心配されることは十分胸に留めながら、受け入れる方もしっかり対応していくので、どうかよろしくお願ひしたい。このことを話したいと思っていたところ、その質問をしていただいたので紹介することができた。

今後、さまざまに思われることや思い付くことがあると思う。今日は来ていないが、保護者説明会の時には校長も来ていた。地区のことだから、公民館の館長もいる。そういうチャンネルでもいい。また、これはどうだというのを、教育委員会に直接お話いただいても結構だ。どうかいろんな角度からご意見をいただきたい。しっかり聞いて次に進みたいと思う。よろしくお願ひしたい。

#### ④閉会のあいさつ（事務局長）